

第 12 回建物・構築物検討会 議事録

1. 日時 平成 19 年 11 月 13 日 (火) 13:00 ~ 14:30
2. 場所 日本電気協会 4 階 D 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - 出席委員 : 久保主査 (東京大学), 北山副主査 (首都大学東京), 貫井幹事 (東京電力), 遠藤 (東北電力), 星野 (中部電力), 藤井 (北陸電力), 伏見 (関西電力), 阿比留 (中国電力), 細川 (四国電力), 船本 (九州電力), 阿部 (日本原子力発電), 清水 (大林組), 福島 (鹿島建設), 小川 (清水建設), 森山 (大成建設), 大宮 (竹中工務店), 中島 (東芝) (計 17 名)
 - 代理出席 : 高橋 (北海道電力・藤田代理), 佐藤 (電源開発・野口代理), 飯村 (日立 GE コーリア・イジ - ・平子代理), 伊神 (三菱重工業・吉賀代理) (計 4 名)
 - 欠席委員 : 竹内 (東京電力) (計 1 名)
 - 常時参加者 : 土井 (新潟大学)
 - オブザーバ : 八代, 菊地, 徳光 (東京電力), 松尾 (鹿島建設), 西山 (大成建設), 熊谷 (大林組)
 - 事務局 : 糸田川, 荒木 (日本電気協会)
4. 配布資料
 - 資料 No.12-1 第 11 回建物・構築物検討会 議事録 (案)
 - 資料 No.12-2 JEAC4601 第 3 章 建物・構築物の耐震設計 (案) に関する規格委員会委員コメント対応案
 - 資料 No.12-3-1 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程スケジュールについて (案)
 - 資料 No.12-3-2 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程 目次 (案)
 - 資料 No.12-3-3 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程 構成 (案)
 - 資料 No.12-3-4 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程 (案)
5. 議事
 - (1) 会議定足数の確認

事務局より, 代理出席者 4 名が紹介され, 規約に基づき久保主査の承認が得られた。また, 代理出席を含む出席委員は 21 名で, 委員総数の 2/3 以上であり, 議案決議の定足数を満たしていることが報告された。
 - (2) 前回議事録 (案) の承認

資料 No.12-1 に基づき, 事務局より前回議事録 (案) が読み上げられ, 全員の挙手により正式議事録として承認された。

(3) JEAC4601 第 3 章 建物・構築物の耐震設計(案)に関する規格委員会委員コメント対応案の審議

資料 No.12-2 に基づき，コメント対応案の説明が行われ審議した。

以下の箇所を中心に読みやすくなるよう修文し 11 月 26 日の耐震設計分科会に諮ることについて、全員の挙手により承認された。

- ・ 3 行目：「・・・適用が広がった。」 「・・・適用が広がったものと考えられる。」
- ・ 6 行目：「本規定」 「本技術指針」

(4) JEAC4618-200X 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程(案)の審議

資料 No.12-3-1～3 に基づき，鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程の検討スケジュールおよび構成案について説明が行われた。また，資料 No.12-3-4 に基づき，JEAC4618-2005 「鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針」との対比で内容が変更された箇所を中心に説明が行われ，審議した。

主なコメントを以下に示す。

- ・ 1.3-3 頁の 1.3.2 材料定数(2)項単位容積重量については、鋼材の割合 (T/t) による変動は評価上考慮すべきかどうかの判断も必要なので、「 24kN/m^3 」と限定するような表現を修正し、解説に T/t による具体的数値を記載すること。
- ・ 2.3-1 頁の解説では SC 構造の許容限界の説明を記載し、かつ JEAC4601 (RC 構造) との関連を説明するよう見直すこと。
- ・ 2.3-5 頁の 2.3.4 機能保持及び波及的影響防止の検討(1)機能保持の検討の文章は、「負圧維持機能，・・・が要求される SC 建物・構築物については，基準地震動 S_s が作用した場合において，最大応答せん断ひずみ度が・・・を超えてはならない。」のように見直す。また，許容限界 ($2.0 \times 10^{-3} \text{ rad}$) に関してその根拠等を整理しておくこと。
- ・ 2.3-1 頁 2.3 耐震安全性の確認に基礎の接地圧の検討を記載することとする。

審議の結果，今回の変更箇所についてのコメントおよび新たな項目の提案があれば，それらを 12 月 15 日までに事務局まで寄せることとされた。また，資料 No.12-3-4 については，11 月 26 日の耐震設計分科会に経過報告という位置づけで中間報告し，その後のスケジュールは資料 No.12-3-1 のように進めることについて，全員の挙手により承認された。

(5) その他

次回(第 13 回)検討会開催は，平成 20 年 2 月 7 日(木)15:00～17:00 とされた。

(その後，開催日が 2 回変更され，最終的に 2 月 21 日に開催された。)

以上